

論文タイトル: Compliance study of contact lens wearers in Japan. Part 2: Evaluation of a subscribed membership system 日本におけるコンタクトレンズ装用者のコンプライアンス研究 その2: 定期会員制システムの評価.

掲載雑誌、年、巻、頁: Eye Contact Lens 2014;40(5):305-308.

著者名(所属): Shimamoto S、Ariwaka Y(島本眼科)、Ichijima H、Sakata H(メニコン)、Cavanagh HD(テキサス大学)

概要: メニコンアイライフサポート(メルス)プランは、2週間頻回交換ソフトコンタクトレンズユーザーのレンズ使用期間に関するコンプライアンスを向上させることが分かりました。より良好なコンプライアンスは、レンズ装用の長期的な眼合併症を減少させる可能性があります。

本研究では、メルスプランが2週間頻回交換ソフトコンタクトレンズ(2WFR SCL)ユーザーのコンプライアンスを向上させるために効果的であるか否かを評価しました。2010年9月から2012年8月までの2年間に、2WFR SCLを装用していたメルス会員104人(平均年齢30.8歳)および非会員(通常のCL購入者)100人(同34.3歳)の臨床記録から、CL処方状況、自覚症状、眼合併症の記録を収集し、加えて、アンケート調査を実施しました。

その結果、非会員群におけるSCL1枚の平均使用期間(17.8±5.6日/枚)は、会員群における使用期間(14.2±3.5日/枚)に比べて有意に長いことが分かりました($p < 0.001$, Mann-WhitneyのU検定)。レンズ1枚の平均使用期間を図1に示すと、会員群では15.4日/枚までにCLを交換したユーザーは74.5%、15.5日/枚以上で交換した不遵守のユーザーは25.5%でした。一方、非会員群では遵守者は45.1%、そして不遵守者は54.9%でした。レンズ使用期間に関して、アンケートによる主観的回答結果および前述の図1の客観的算出結果を図2に示します。実際には不遵守(15日/枚を超過)であるにもかかわらず、自身では遵守(15日/枚以下)であると回答したユーザーは、会員群($p = 0.0002$)に比べて非会員群($p < 0.0001$)で有意に多いことが分かりました(Fisherの正確確率検定)。会員群および非会員群における自覚症状は、両群でほぼ同等でしたが、アレルギー性結膜炎と巨大乳頭結膜炎の発症割合は会員群に比べて非会員群で高い傾向でした($p = 0.18$, χ^2 検定)。

メルスプランは、ユーザーのコンプライアンスを向上させるために効果的であることが分かりました。より良好なコンプライアンスは、レンズ装用の長期的な眼合併症を減少させる可能性があります。

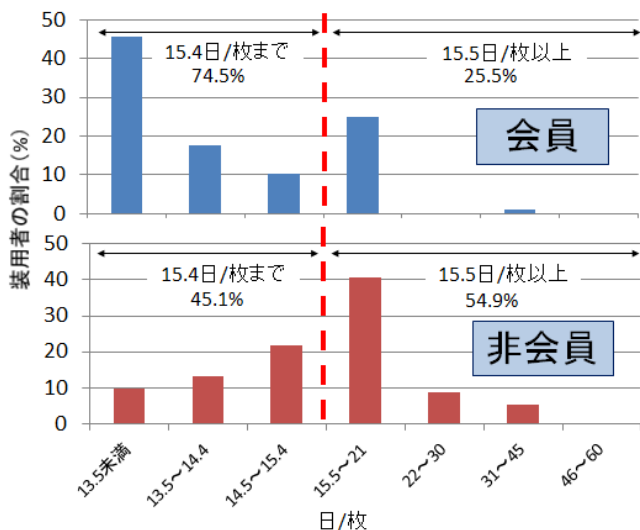


図1 レンズ1枚の平均使用期間のヒストグラム

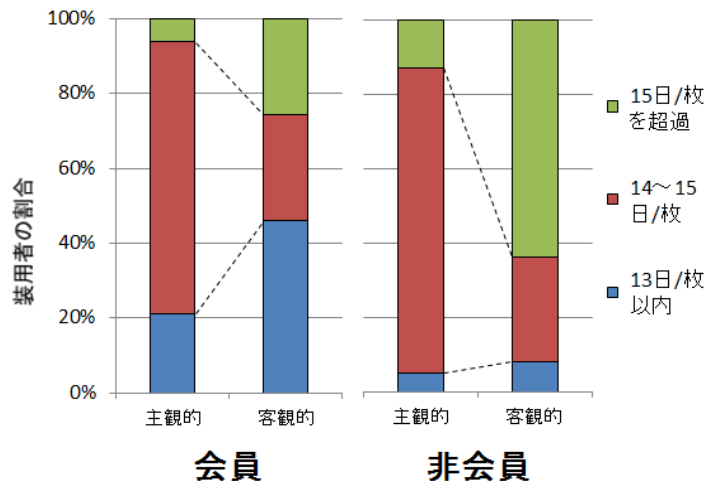


図2 主観的および客観的なレンズ使用期間の比較